

アメルバッハ・キャビネット ーコンテキスト分析による原秩序類推の試みー

Amerbach Cabinet: Essay for the Analogy of its Original order by Analyzing its Context

村松 綾

MURAMATSU Aya

はじめに

アメルバッハ・キャビネットとは、スイスの都市バーゼル¹の名望家アメルバッハ一族が15世紀から17世紀の初めにかけて形成した家族アーカイブズの名称である。書簡群に代表される膨大な文書資料と、現在は美術館や博物館に収蔵される大量のモノ資料から成り、複数回の移管と再編成を繰り返したことで原秩序は失われ、かつ、他アーカイブズの資料が混在したこともあり、現在の所蔵機関ですら混在の事実を明示するにとどまっている。本稿では、コンテキスト分析を通じて、可能な限りアメルバッハ・キャビネットの原秩序の類推を行うことを目的とする。

アメルバッハ・アーカイブズの成立には都市の成立過程が深く関わっていることから、コンテキストを分析するため、本論に入る前に都市バーゼルの成立と発展、それに関わるバーゼルのアメルバッハ家の成立と繁栄について簡単に説明を付す。

現在のスイス、ドイツ、フランスの接合点にある都市バーゼルは、8世紀半ばに司教都市として成立した。ライン川沿いに位置することから国際交易における水陸双方の交叉点として成長し、経済面でも大きな発展を遂げた。都市バーゼルが最盛期を迎えたのは15世紀とされ、バーゼル公会議の開催（1431-49年）やバーゼル大学の設立（1460年）がこの時代の代表的な出来事である²。産業分野では製紙産業が導入³され、次いで出版印刷業の発展⁴により、都市はますます発展した。都市バーゼルにおける多量

のアーカイブズの生成には、この製紙・出版印刷産業の発展が大きく関わっている。バーゼルにはスイスで唯一大学があったことから、16世紀前半には人文主義者ロッテルダムのエラスムス⁵ら知識人も参集し、ギリシア語・ドイツ語訳聖書が出版される⁶など多くの文書が生み出された。それらを下敷きに、1520年代以降エコランパッド⁷が宗教改革を行っている。

1. 近世バーゼルの家族アーカイブズ、アメルバッハ・キャビネットと現在の体系

(1) 都市バーゼルのアメルバッハ家とアメルバッハ・キャビネット

最初のアメルバッハ家の人間がバーゼルにやってきたのは、都市が出版印刷産業の中心地として成長している只中だったとされる。もとはドイツの下部フランケン地方のアモールバッハ⁸で生まれ育ったヨハネス・アメルバッハが、イタリアのヴェネツィアで印刷業者としての研鑽を積み、当時はまだ神聖ローマ帝国傘下にあったバーゼルに定住したのは1475年から78年の間のことだ⁹。

アメルバッハ家の家族アーカイブズであるアメルバッハ・キャビネットは、ヨハネスが1470年代後半にバーゼルに居を定めてから、息子世代のブルーノ、バシリウス、ボニファキウス、更に孫世代のバシリウスを経て、その後はバシリウスの姉の婚家イゼリン家に受け継がれるなかで形成された。

2代目のボニファキウスは、友人の人文主義者エ

ラスムスから遺品を贈られてコレクションを増やし、3代目のバシリウスは父ボニファキウスによる美術品アーカイブズに加える形で自身でも書籍や美術品を数多く購入し、更にペストの流行で廃業した工房の備品を多く受け入れたため、更に多くの収集品を保管する必要性が生じた。バシリウスは、祖父伝来の屋敷ハウス・ツム・カイザーシュトゥール *Haus zum Kaiserstuhl*¹⁰を改築し、住居部分である本邸の後ろに、回廊で繋がったコレクション館を設置、そこで一族伝来のアーカイブズを保管した¹¹。

人文主義の発展と宗教改革に伴う出版印刷業の興隆を背景に、アメルバッハ家もまた都市とともに発展し、都市バーゼルを代表する名士へと成り上がった。

本章では、アメルバッハ・キャビネットが家族アーカイブズとしてどのように形成され、そして編成されていったのかを探るべく、まずは現在の体系を確認する。

(2) アメルバッハ一族とアメルバッハ・キャビネット

まずは、巻末に掲載した「アメルバッハ・キャビネットの体系図」を参照いただきたい。

アメルバッハ・キャビネットは、1661年にバーゼル市参事会が買い取り、バーゼル大学に移管された1662年を前後に大きく2つに分けることができる。詳細は第2章で述べるが、1662年以降にアメルバッハ・キャビネットに編成された資料群のうち、モノ資料は完全に1662年以前の資料群に混入し、現在ではどれが1662年以前の資料でどれが以降かを判別するのは難しい状況にある。資料の所蔵機関も原秩序の復元は試みていない。

1662年までに形成された資料群は、大きく文書資料とモノ資料に分けられる。文書資料はバーゼルのアメルバッハ家の人間が残した文書類で、書簡と会計書類・財産目録・遺産目録からなる書類に分けられる。モノ資料は「絵画・素描・版画」「貨幣・メダル」「図書」「金細工」の大きく4部門に編成され、アーカイブの性質にしたがって、所蔵機関も分かれている。

1661年までのアーカイブズ―出所（フォンド）：

アメルバッハ一族―

文書資料：書簡

文書資料のうち書簡は現在、バーゼル大学図書館(UBH)が保存管理を行い、6,000通近い書簡¹²のうち全てではないが一部デジタル公開も行っている¹³。アメルバッハ・キャビネットは1661年に購入された後、調査が行われ1662年に市当局が作成した目録には、書簡群は館内のあらゆる棚や籠に無秩序に保管されていたことが記録されている。1671年にアメルバッハ・キャビネットはハウス・ツァ・ミュッケ *Haus zur Mücke*に移されたらしい¹⁴。書簡群もその際、一緒に移管されたと考えるのが自然だろう。

その後1775年まで未整理のまま放って置かれたが、1775年以前にバーゼル大学図書館司書のヤコブ・クリストフ・ベック *Jakob Christoph Beck*博士が始めたアメルバッハ・キャビネットの大規模な再編成により、書簡群も製本業者の手でまとめられ、1775年1月26日から76年6月15日にかけて完了し次第、大学図書館に順次移管されたことが目録に記録されている¹⁵。

書簡群にはアメルバッハ家の人間宛／差出以外も含まれているが、それらが収集された経緯は現時点では明らかになっていない。アメルバッハ家に関連する書簡群にはG II 13及び13a、14から33の資料番号が付されている。それらのうちG II 13は近親者間や近親以外の家族内の書簡のみが収められ、G II 13aにG II 13の補足と全巻の補足が収められている。G II 14から32まではボニファキウスとバシリウスに宛てられた書簡だけで編成され、差出人をアルファベット順にして編成している。G II 33は様々な宛先の書簡で編成され、時代もアメルバッハ家の男系が断絶した後にも及んでいる¹⁶。

このG II 13及び13a、14から33は1937年1月¹⁷から始まるバーゼル大学図書館の大規模なプロジェクトにより1942を最初の刊行年として翻刻集 *Amerbach-korrespondenz* (以下AK) が刊行中だが、2010年に11巻2号が刊行されて以降、休止されているようである。書簡群のなかには草稿も混在し、また中高・

新高ドイツ語とラテン語、一部はギリシア語で書かれていることに加え、法学・神学の知識に通じた人員も必要なことから事業の遂行が簡単ではないことが推測できる。また近年はアーカイブズのデジタル化が優先課題となる傾向にあり、人的リソースも限られる昨今において、資料の解読はもちろん、スペル等の補記・修正、再編成と注釈も必要な本プロジェクトが後回しになっている可能性も考えられる。

二次資料（注釈付き翻刻）

:アメルバッハ書簡集 *Amerbachkorrespondenz* (AK)

巻号	書簡年代 刊行年 頁数	巻号	書簡年代 刊行年 頁数
I	1481-1513 1942 508 S.	IX/1	1553-1554 1982 443 S.
II	1514-1524 1943 543 S.	IX/1	1553-1554 1982 443 S.
III	1525-1530 1947 590 S.	IX/2	1554-1556 1983 469 S.
IV	1531-1536 1953 514 S.	X/1	1556-1557 1991 505 S.
V	1537-1543 1958 540 S.	X/2	1557-1558 1995 636 S.
VI	1544-1547 1967 716 S.	XI/1	1559-1560 2010 640 S.
VII	1548-1550 1973 616 S.	XI/2	1560-1562 2010 704 S.
VIII	1551-1552 1973 468 S.		

文書資料：書類

もうひとつの文書資料は書類で、主に会計書類と目録から成る。目録は更に財産目録と遺産目録に編成することができる。これら資料は書簡群とは異なり、資料のコンテキストに従って様々な機関に保管されている。以下に作成者ごとに現況を述べる。

第1世代のヨハネスは書簡が多いのとは対照的に、現存する書類は多くはない。バーゼル大学図書館で確認できたのは、共同事業者ニュルンベルクのアントン・コーベルガー *Anton Koberger* に借金をした際の借入金記録である¹⁸。

第2世代のボニファキウスは1552年に、所有している貨幣・メダルの目録 (*Münzverzeichnis des Bonifacius Amerbach aus dem Jahr 1552*) を残した。この資料はごく一部に入手年の記載やメモがあるが、ほとんどは貨幣の名称と刻まれている銘文を羅列したものである。スザンヌ・フォン・ヘルシェルマン *Susanne von Hoerschelmann* による翻刻が公表された1991年¹⁹以降、研究ではもっぱら翻刻が用いられているが、原本C Vla 82はバーゼル大学図書館で保管されている²⁰。他には大学関連・法学関連では博士学位授与式演説原稿²¹、学長就任演説原稿²²、大学の裁判権の権限に関する請願書²³、大学式典に購入した本の決算書²⁴、訴訟記録²⁵、法的意見書²⁶、友人エラスムスの遺言証書の下書き²⁷があり、当時都市バーゼルでも行われた宗教改革に関連して宗教改革論争における信仰告白書²⁸、より私的な領域ではアメルバッハ家のラテン語碑文帳²⁹、日記形式の覚書³⁰、詩の草稿³¹がバーゼル大学図書館に保管されている。

第3世代のバシリウスが残した書類が最も多い。父ボニファキウスと同様に法学者だったため法律関連書類³²、会計書類と2種類の目録、財産目録と遺産目録が存在する。会計書類は屋敷ハウス・ツム・カイザーシュトゥールの裏手に増築したコレクション館の建設³³に関わる内容で（「コレクション館に関する勘定書集、1578-1582年 *Das Rechnungsbüchlein zum Sammlungsbau 1578-1582*」）、バーゼル大学図書館にMs. C Vla 63, p.60-76 (Sp.1-31) として残され

ている³⁴。それ以外の会計書類、家政書類は巻末に付した一覧1「バシリウス・アメルバッハの会計・家政書類（バーゼル大学図書館所蔵）」を参照いただきたい。

目録のうち、財産目録では以下の5点が特に有名である。「財産目録A、1577/78年 *Das Inventar A von 1577/78*」³⁵「財産目録B、1580/81年 *Das Inventar B von 1580/81*」³⁶「財産目録C *Das Inventar C*」³⁷「財産目録D、1585-1587年 *Das Inventar D von 1585-1587*」³⁸の4点はモノ資料の目録であることから、アメルバッハ・キャビネットのモノ資料を所蔵しているバーゼル美術館（KMB）の版画室図書館で保管されている。5点目の「寄贈品と交換品のアメルバッハ家の目録1579-1591年 *Amerbachs Verzeichnis der geschenkten und getauschten Gegenstände 1579-1591*」だけはバーゼル大学図書館がMs. C Vla 82³⁹として保管する。資料はラテン語で記され、贈られた、もしくは交換したものの持ち主の名前と品物の簡単な名称、貨幣の場合は銘文が羅列され、なかには入手日が記録されているものもある⁴⁰。これら5点の資料のうち、「財産目録C」以外は翻刻が公刊されている⁴¹。

「財産目録A、1577/78年」は縦21.4センチ、横16.5センチの全紙の資料で、4103点のモノ資料名と個数が書き込まれている。都市バーゼルでは1576年から1578年にかけてペストが流行して多数の死者が出たのだが、バシリウスは亡くなった芸術家や職人の遺産を買い取っている。他にも閉業したり転職したりした職人の工房の膨大な備品工具類、制作資料類を全てそのまま買い取り、加えてバーゼルに滞在していたサヴォワ家の侍医⁴²からも貨幣やメダルを購入していることが知られる⁴³。多くの収集品で手狭になったことが1578年からのコレクション館の建設につながった⁴⁴。

「財産目録B、1580/81年」は縦21センチ、横16.5センチの全紙の資料で、書き留められているモノ資料は全て版画である。バシリウスが居館からコレクション館へモノ資料を移管した際には、モノ資料保管用の特別なキャビネット（戸棚）を資料の性質に

合わせて複数製作させ設置しているのだが、「財産目録B」は版画用キャビネットの引き出し番号ごとに分けられ、収められているモノ資料に記された署名と作品に情報が記載されている場合は制作年が書き留められている。特に覚書の類はない⁴⁵。

「財産目録C」は冊子形式で388頁あり、作成途中で完成していないこともあり空白ページも目立つ。木版画と銅版画、それらに関する書籍の情報がラテン語で4000件以上書き込まれている。翻刻・刊行はなく、デジタル化も行われていない。背表紙が緩んでいるなど非常に状態が悪くフラジャイルでもあることから非公開である⁴⁶。

「財産目録D、1585-1587年」は縦31.8センチ、横21センチで5枚、1枚を左右に分け、IからIXまでのページ番号が書き込まれている。未完で、羊皮氏の封筒に入れて保管されていた。年代に関係する言及はなく、「財産目録A」「財産目録B」や後述の遺産目録との照合から、加えて保管用キャビネット（戸棚）の引き出しごとに収蔵資料が記載されていることもあり、コレクション館への移管時期等から後世の研究者が1585年から1587年の目録と推定したものである⁴⁷。コレクション館は約28平方メートルあったとされ、窓のない壁際には金細工資料用だけで、それぞれ6、7、または10の引き出しのある棚が6つ並べられていたことがわかっている⁴⁸。

バシリウスはこれ以外にも財産目録を複数残しており、書籍、版画、金細工の目録がバーゼル大学図書館でデジタル公開されている。詳細は巻末の一覧2「バシリウス・アメルバッハの各種財産目録（UBH所蔵）」を参照いただきたい。

バシリウスの遺産目録は「1582年のアメルバッハ家の遺言草稿、及び1589年の修正（抜粋）*Amerbachs Testamentsentwurf von 1582 mit Korrekturen von 1589 (Auszug)*」として、甥のルートヴィヒ・イゼリンに宛てた部分だけ抜粋して翻刻・刊行されている⁴⁹。原本は見開き41葉⁵⁰から成り、縦33センチ、横21センチの大きさと、バーゼル大学図書館が保管し、デジタルデータが公開されている⁵¹。翻刻分はUBH C Vla 63:fol.164部分である。一葉を真ん中で半分に

割り、左右にノートのように文章が書かれ、後年の修正は左右の余白や、文章に直接取り消し線や単語を書き入れている。

アメルバッハ家では他にもバシリウスの妹のユリアナ・アメルバッハが遺産目録を残しているが⁵²、1564年に亡くなり、アメルバッハ・キャビネットの形成に深く関わっていることは考えづらいことから、本稿では割愛する。

次章で概説するがバシリウスは妻子をなくし、その後も新たに子どもを儲けなかったことから、アメルバッハ家の財産は姉のファウスティーナ・イゼリン、甥のルートヴィヒ・イゼリンが受け継いだ。アメルバッハ家の財産に関してはルートヴィヒが会計書類を2種類と遺産目録を、ファウスティーナが遺産目録を残している。ルートヴィヒの会計書類は「4a. 1562-1591年の収集のためのアメルバッハ家の支出に関するルートヴィヒ・イゼリンの一覧表 4a. *Ludwig Iselins Aufstellung der Ausgaben Amerbachs für die Sammlung in den Jahren 1562-1591*」として翻刻が刊行⁵³され、その補稿が「4b. 支出編成表4aに対するイゼリンの補遺葉 4b. *Ergänzungsblatt Iselins zur Ausgabenzusammenstellung 4a*」として同様に刊行⁵⁴されている。4a、4bともにラテン語で書かれ、現在はバーゼル大学図書館が保管する⁵⁵。4aに関しては該当年の月ごとの支出が中近世の一般的な形式である1b (ポンド *Pfund*)、β (シリング *Schilling*)、d (プフェニヒ *Denar/Pfennig*) に分けて記載されているにとどまり、購入品目の記載は一切ない。4bでは年月日と購入先、簡単な購入物の情報が文章で記され、価格は4aと同様の形式で示される。

ファウスティーナ・イゼリンの遺産目録は1602年に記され、20世紀前半にバーゼル歴史博物館に勤めていた美術史家パウル・ガンツ *Paul Ganz* とエミール・マヨール *Emil Mayor* による調査が行われた当初は「目録E *Das Inventar E*」と標識をつけられていた。現在では抜粋部分のみの翻刻「1602年のファウスティーナ・イゼリン＝アメルバッハの遺産目録 (抜粋) *Nachlassinventar von Faustina Iselin-Amerbach 1602 (Auszug)*」が刊行されている⁵⁶。キャビネット

(戸棚) や部屋ごとの資料数、資料の種類、資料備考 (描かれているテーマや対象、文言など) が記載されており、原本はバーゼル州立文書館の個人アーカイブズにPA 30, 1として保管されている⁵⁷。

ルートヴィヒの遺産目録は1614年に完成した。ルートヴィヒ自身は1612年に亡くなり、この遺産目録には「公用の *amtlich*」という形容詞が付くことがあることから公証人など公的な立場の人間が完成させたのだろう。モノ資料に関連する部分の抜粋のみの翻刻「1614年のルートヴィヒ・イゼリンの遺産目録 (抜粋) *Nachlassinventar von Ludwig Iselin 1614 (Auszug)*」が刊行され⁵⁸、原本はバーゼル州立文書館の個人アーカイブズにPA 30, 2として保管されている⁵⁹。ルートヴィヒは1610年にペストで6人の子どものを失い、翌年新たに子ども生まれたが、この遺言が書かれた時点では成年相続人はいなかった。ルートヴィヒの遺産目録は一部で絵画資料が増えていることと、貨幣資料への偏重が見られること以外はバシリウスの「財産目録D」からほとんど変更はなく、この時点ではアメルバッハ・キャビネット内の原秩序はほぼ保たれていたと考えられている。「財産目録D」と同様に、キャビネット (戸棚) や匣、それらの引き出しごとの資料点数や簡単な資料の種類、なかにはごく簡単に素材 (「(小さな鉄製の箱の) 34番目の引き出しには様々な銀製、そして銅製の小硬貨」⁶⁰など) や出所 (「11番目の引き出しにはロッテルダムのエラスムスとその他の打ち出しメダル。17個」⁶¹) が示されているものもあるが、非常に簡潔な記載にとどまるため、現存する資料との照合は難しいと思われる。「財産目録D」と同様、おおまかな家具や匣の配置がわかるほか、ルートヴィヒの遺産目録からは新たに37段の引き出しがある匣と22段の引き出しがある匣がドアを挟んで置かれていたことがわかっている⁶²。

モノ資料

次にモノ資料の編成について言及する。モノ資料は節の初めで触れたように「絵画・素描・版画」「貨幣・メダル」「図書」「金細工」の大きく4部門に編成

され、「絵画・素描・版画」アーカイブズはバーゼル美術館（KMB）が、「貨幣・メダル」と「金細工」はバーゼル歴史博物館（HMB）が、「図書」はバーゼル大学図書館が保存管理を行う。文書資料で言及したG II 13, 13a, 14から33を含む膨大な手稿書簡群は「図書」アーカイブズのあった図書館に保管されていたため⁶³、「図書」アーカイブズの一部と考えていだろう。書籍類や手稿文書は合わせて10000点近くあるとされる。「絵画・素描・版画」資料では、絵画は50点以上、素描は1800点以上、版画は約4000点あった。「貨幣・メダル」は2000点以上⁶⁴、「金細工」アーカイブズには作品以外の、工具が480点近く、鑄造原型がおおよそ900点（のち1580点に増加）、そのほか部分的な鑄造物や見本などを含む制作道具類計4103点が別にあったが⁶⁵、その大半は現在失われてしまっている。アメルバッハ・キャビネットの金細工作品の点数について確かな数を確認することはできなかったが、現在バーゼル歴史博物館には2000点を超える金銀細工と1500点以上の鑄造原型があるとされている。金細工作品は例えばロッテルダムのエラスムスは貴金属製ゴブレット30点のうち27点をボンファキウスに遺しているが、2点しか現存しない⁶⁶ように失われたものも多くあると推測できる。また、現在の金細工資料2000点のうち、バーゼル大聖堂由来資料や近世以降、つまりアメルバッハ以降の資料や、これら以外にも出所を異にする作品も多くあることに注意せねばならない。

1662年以降—他出所資料の混在—

1662年以降に作成された、もしくはアメルバッハ・キャビネットに再編成されたアーカイブズは出所（フォンド）がアメルバッハ家ではない。これらアーカイブズも文書資料とモノ資料に分かれるが、最初に文書資料から説明を加える。

文書資料

都市バーゼルとバーゼル大学が出所（フォンド）となる文書資料が「財産目録G、1662年7月、及び1664年の修正 *Das Inventar G vom Juli 1662 und die*

Korrekturen von 1664」である。1661年11月のキャビネット購入後、バーゼル市参事会とバーゼル大学の委託で作成された20ページにわたる公文書で、現在はバーゼル州立文書館で保管され⁶⁷、翻刻も刊行されている⁶⁸。大量の購入物の目録にしては非常に簡易な内容だが、冒頭に「バーゼル市中心に位置するアメルバッハ家の芸術カンマーにある絵画及び珍奇な品々の目録 *Inventarium der Gemälden und Rariteten so sich in der Ammerbachischen Kunst Cammer in der Mindern Statt Basel befinden.*」とある3ページから6ページまでの60項目は比較的詳しい情報が掲載されている。例えばNo.1は「ハンス・ホルバイン夫人と子ども二人、ハンス・ホルバインが紙に油彩で描き、何者かが木板に貼り付け改造した *hs Holbeins fraw und 2. Kinder, von Ihme hs Holbein auff Papier Contrafaictet mit ölfarben auff holtz gezogen*」と書かれ、「財産目録D」の1ページ5行目にある作品と同じとされ、バーゼル美術館所蔵のInv.325であることが判明している⁶⁹。このように60項目中3項目ほどを除いて他の財産目録との照合や現存資料の同定が済んでいる。7ページ以降は収蔵戸棚ごとの引き出しの中身について書かれ、資料種別（銅版画、木版画、本、絵画、下絵、文書など）と個数のみ（、引き出しが空の場合は空）にとどまる記述が大半で、概要目録といっていだろう⁷⁰。

モノ資料

16・17世紀の都市バーゼルで資料収集を行っていたのはアメルバッハ家の人間だけではない。例えばバーゼル大学医学部教授で、バシリウスと交友関係にあった医師フェーリクス・プラッター *Felix Platter* (1536-1614) は有名な植物・博物標本のほかにも金細工の鑄造原型や、医療費の代わりに受け取った宝飾品、銀食器などの金細工資料、貨幣なども収集していた。プラッターは入場料もとって公開を行っていたが、死後は売却され資料は散逸している。

都市の外交官で銀鉱山経営もしていたアンドレアス・リフ *Andreas Ryff* (1550-1603) は外交の報奨と

して得た金細工の杯に加え、鉱物や貨幣、鑄造原型も収集した。これら資料もリフの死後に散逸したが、一部はアメルバッハ・コレクションに混ざったと考えられている。また、都市バーゼルの有力門閥フェッシュ家の出身で、バーゼル大学学長を3回勤めたレミギウス・フェッシュ*Remigius Faesch* (1595-1667) も美術品や金細工資料を収集し、1653年からフェッシュ博物館として資料の公開を行った。これら資料のうち鉛製の鑄造原型は1823年にフェッシュ博物館のアーカイブズがバーゼル大学に移管され、ハウス・ツア・ミュッケに運び込まれた際にアメルバッハ・キャビネットの鑄造原型と混ざってしまったとされる⁷¹。

2. アメルバッハ・キャビネットの形成・変遷・改編 ーコンテキスト分析の視点によるー

本章では1章で扱ったアメルバッハ・キャビネットの資料群が編成される過程を、コンテキスト分析の観点から16世紀から18世紀にかけて概説する。

(1) 16世紀：アメルバッハ一族によるアーカイブズ形成

アメルバッハ・キャビネットの成立において、ヨハンネスの出版業と息子や孫が法学を修めたことは切り離すことはできない。事業を通じた交友関係が今も多く、書簡資料の形で残り、また息子たちがパリやアヴィニョンなどスイスを離れて修学できたのも事業の成功による経済力だけでなく、ヨハンネスの交友関係の中からくる人的援助による部分も大きかったはずだ。本節ではアーカイブズ形成の側面に着目して、アメルバッハ家の3代とその後継者について述べる。

第一世代：

出版業者ヨハンネス・アメルバッハ 1441⁷²-1513

アメルバッハ市長ペーター・ヴェルカー*Peter Welcker*の子として生まれた⁷³ヨハンネスは、ベネ

ディクト派修道士による古典的教育を受けて育ったとされる。その後、哲学と文献学を学ぶためにパリに渡り、パリ大学で人文主義者、神学者のヨハン・ハインリッヒ*Johannes Heynlin*⁷⁴の指導のもと学士号と修士号(マギステル・アルティウム、1462年)を取得した⁷⁵。この修士の学位によるためかヨハンネスはアメルバッハ書簡集AKの中で大抵マイスター・ハンスと呼ばれている⁷⁶。学位取得後はローマとヴェネツィア⁷⁷へ赴き、1465年までの間、印刷業を学ぶためヴェネツィアに滞在していたとみられる⁷⁸。またヨハンネスの滞在は、人文主義者であり後にヴェネツィアの大出版業者になったアルドゥス・マヌティウス*Aldus Pius Manutius*⁷⁹の滞在時期と重なっていた可能性も指摘されている⁸⁰。ヨハンネスはその後、1475年から78年に〈ヴェネツィアのハンス〉としてバーゼルで印刷業を開始した。1481年にサフランツンフト⁸¹に加入すると、82年にライン川右岸の小バーゼルに家を取得し、83年に40歳前後でバーゼル市参事会員レオンハルト・オルテンベルクの娘バルバラと結婚、翌84年にバーゼル市民権を取得した⁸²。

ヨハンネスはセバスチャン・ブランツ*Sebastian Brant*⁸³やヨハネス・ロイヒリン*Johannes Reuchlin*⁸⁴、指導教授ハインリッヒ、ベアートゥス・レナーヌス*Beatus Rhenanus*⁸⁵ら多くの人文主義者とともに仕事をしたほか、1502年以降は同業のヨハンネス・ペトリ*Johannes Petri*⁸⁶や、ヨハン・フローベン*Johann Froben*⁸⁷と出版印刷販売団体を創設している⁸⁸。ヨハンネスの印刷出版事業はバーゼル市内にとどまらず、ペトリやフローベんとともにニュルンベルクの大印刷出版業者アントン・コーベルガー⁸⁹と業務提携を行い、提携事業に関する1493年から1508年までの様々なやり取りが往復書簡AKに残されている。コーベルガーに関する1508年4月14日の最後の書簡⁹⁰は特に提携を終了させるような内容の言及はないため、書簡が残っていないだけでヨハンネスとコーベルガーが亡くなる1513年までは提携関係は継続していたと考えられている⁹¹。

パリ大学で取得したマギステルは伊達ではなく、

AKからはヨハネスが日常用語としてラテン語を自在に駆使していたことやギリシア語の知識もあったことが見て取れる⁹²。学識者らとの書簡はもちろん、パリで修学していた息子のブルーノ(1484-1519)とバシリウス1世(1488-1535)ともラテン語で書簡を往復している⁹³。息子たちは資金の管理・引き出しについてコーベルガーのパリ支店の世話になっていたが⁹⁴、勉学に身を入れていたわけではなく、講義よりも酒場に入り浸っていたことから、父ヨハネスは出版業の関係で繋がりがあり、後年アメルバッハ家3代の墓碑⁹⁵も建てたカルトゥジオ会修道院のヨーロッパ広域ネットワークを通じて様子を把握し⁹⁶、親としての愛情からくる心配と苦言に溢れた手紙を「何々すべし」といった形で常にラテン語でおびたしい数書き送っている。

ヨハネスは1499年の一時期に事業拠点をセレストタに移すことも検討したが、結局バーゼルから去ることはなく、代わりに精力的に遠方へも出張している。フランクフルト・アム・マインの大市によく赴いていたほか、ストラスブルクやフライブルク・イム・ブライスガウにも訪れた。ヨハネスはかなり頑丈な人物だったらしく、60代後半にフランクフルトの大市⁹⁷に、70歳頃にストラスブルクの大市⁹⁸に訪れている記録が残る⁹⁹。

コーベルガーのいたニュルンベルクに関しては、大量の書簡AK中、ヨハネスが実際に訪れたとわかるのは1回のみである。50代後半から60代頭という当時としても十分に高齢にも拘わらず、1502年の冬にニュルンベルクを訪問している¹⁰⁰。それ以前の記録では、1493年10月23日のニュルンベルクにいるペトリからヨハネスへの手紙¹⁰¹のなかでコーベルガーが協議案件に納得していないことからヨハネスにニュルンベルクに来るよう言っているが、その後ヨハネスが実際に訪問したかについては書簡資料からは不明である¹⁰²。AK1:301からは1506年の4月13日にヨハネスとフローベン、コーベルガーがフランクフルトで落ち合い、事業の協議をしていることがわかるので、互いの中間地点にあたるフランクフルトで会う機会が多かったことも考えられる。

実際にニュルンベルクを訪問する機会は多くはなかったかもしれないが、ヨハネスはコーベルガーとのつながりでニュルンベルクの知り合いも増やしている。例えば、1506年の年初にニュルンベルクの名士アントン・テッツェル *Anton Tetzel* (1459-1518) の息子である青年アントン2世(1487-1548)¹⁰³がバーゼルを訪問することになり、コーベルガーからヨハネスとペトリがその受け入れを行うよう依頼を受けている¹⁰⁴。テッツェル家は鉱山業や金属精錬業、金属加工製品の売買を担うニュルンベルクの一大門閥¹⁰⁵であり、アメルバッハ・キャビネットにおける「金細工」アーカイブズのニュルンベルク由来鑄造作品の入手経路を考えるうえで重要な位置にあると考える。今後の課題としたい。

1479年にラインガッセ(ライン横丁)にあるハウス・ツア・エレンデン・ヘアベルゲ *Haus zur Ellenden Herberge* を、1482年に同じくラインガッセで向かいにある¹⁰⁶ハウス・ツム・カイザーシュトゥールを購入し、のちに後者の裏地にアメルバッハ家3代目のバシリウスによってコレクション館が建てられた。

宗教の面では自身の出版業を通じて市内のカルトゥジオ会聖マルガレテンタル *St. Margarethental* 修道院と密接な関係にあり、アメルバッハ家の3人の墓石が残されている¹⁰⁷。

第二世代：

法学者ボニファキウス・アメルバッハ 1495-1562

ヨハネスには3人の息子と2人の娘が生まれた。パリに留学した長男のブルーノ(1484-1519)は学位を取らず帰郷したが、語学に堪能だったこともあり父の工場を手伝うも、30代半ばで亡くなった。次男バシリウス1世(1488-1535)はアルザス地方のセレストタ、バーゼル、パリで修学し、パリで修士号(マギステル・アルティウム、1506年)を取得した後はフライブルク・イム・ブライスガウで法学者ウルリッヒ・ツァシウス *Ulrich Zasius* について法学を学んでいる。後年は父ヨハネスの死後、工場を継いだフローベンとともに働くも、体が弱く物静かな性

格だったことや、市内で起こる宗教改革からジレンマに陥り、ライン川上流地域に逃亡を繰り返した¹⁰⁸。

ヨハンネスの次男バシリウス1世が結婚せず40代後半で亡くなったことから、アメルバッハ家を継いだのは三男のボニファキウス(1495-1562)となった。ボニファキウスは次兄と同じくセレスタで学んだ後、1513年にフライブルク・イム・ブライスガウのフライブルク大学法学部に入学した。この頃、後に遺品を受け継ぐまでに親しくなるロッテルダムのエラスムスと知り合っている。エラスムスは当時バーゼルに滞在していた。1520年にはアヴィニオン大学へ行くも、ペストの流行から翌年一旦バーゼルに戻り、再度バーゼル滞在中のエラスムスと交流を深めている。1522年にアヴィニオンに戻った後、1524年にバーゼル大学のローマ法の教授に就任、アヴィニオン大学の法学博士号は1525年に取得している。1527年には商人でヌシャテル市長のレオンハルト・フクスの娘マルタと結婚し、1男4女(うち2女は早逝)に恵まれた。1534年にはマルティン・ルターとも知り合っている。1536年にエラスムス財団の管財人となったことに加え、エラスムスから個人的に全ての金製指輪とゴブレット27点を遺された。これらは後年、息子のバシリウス2世(1533-91)に受け継がれた。

教会会議や討論において派遣使節や鑑定人を務め、エラスムスと親しく付き合い、またルターとも知り合ったボニファキウスだが、市内の宗教改革に対しては消極的な姿勢を見せていたらしく、次兄のように出奔するほど悩んだという記述もない。5回学長を勤めたバーゼル大学を1548年に退職した後は、国外からなかなか帰郷しない息子に手を焼いていたようである。都市やドイツ諸侯の法律顧問を勤めながら1562年まで生き、父ヨハンネスと同じカルトゥジオ会修道院に葬られた¹⁰⁹。

第三世代：

法学者バシリウス・アメルバッハ 1533-1591

ボニファキウスの唯一の息子バシリウス(2世)(1533-91)は父が38歳の時に生まれた。1548、49年

にバーゼル大学に入学して50年に文学士を取得した後、1552年から法学をテュービンゲン大学で学び始めた。更なる勉学のため翌53年にイタリアのパドヴァに赴き、この頃バシリウスの古代ローマへの興味関心が花開いたようである。1554年にヴェネツィアにも旅行をしている。1555年にパドヴァでペストが流行したため、ヴェネツィアに避難し、フェラーラを越えて法学で有名なボローニャで修学する。父ボニファキウスを説得して、56年からアンコーナ、ローマ、ナポリ、エトルリアへのイタリア旅行を開始、年末にバーゼルに一時帰郷するも57年からはトロワ、パリ、オルレアンとフランス旅行を行い、ブルジュで法学を学んだ。なかなか帰郷しない息子に業を煮やした父ボニファキウスは、バーゼルに息子を縛り付けるべく、1559年の帰郷時に町の有力者で、両替商と金細工師を抱える家人ツunft(職人組合)の首席ツunftマイスター、両替商ヤコブ・リュディン*Jakob Rüdlin*の娘エスターと婚約させた。バシリウスは法学者として身を立てるべく、1560年に帝国都市シュパイヤーの帝室裁判所で実習を受けることになるが、芸術方面への憧れを諦めきれなかったらしく、実習生の同僚たちとの同居を望む父の願いに反し、金細工師ヤコブ・ツァ・グロッケ*Jacob zur Glocke*の家に居候した¹¹⁰。バシリウスは更に旅行を計画していたが、父ボニファキウスと将来の義父リュディンの強い反対にあい断念している。1560、61年にボローニャ大学で博士号(法学)を取得、バーゼルに帰郷し婚約者エスターと結婚した。62年にバーゼル大学のローマ法の担当教授に就任したが、同年に妻と新生児、父を亡くし¹¹¹、アメルバッハ・キャビネットを相続した。1564年に入り、今度は姉ファウスティーナの夫で義兄のウルリッヒ・イゼリン*Ulrich Iselin*がペストで亡くなる。ウルリッヒはボニファキウスの教授職の後継だったため、バシリウスが後を引き継ぎ学説集成の教授に就任、家長を亡くした姉と甥の面倒をみることになった。1576/78年に再度ペストがバーゼル市内で流行し、閉業した市内の金細工工房¹¹²の作品や道具類を購入したほか、貨幣・メダルをも購入、前章で詳説した

「財産目録A」を1578年に書き上げた。1580年に「財産目録B」も作成、1581年にはバーゼル市法律顧問に就任し、市内外の顧客の私的弁護人も務めた。図書資料はこの時期に増量している。また国内外学者との書簡交流が活発になったのもこの頃で、歴史学、考古学、史料批判、碑銘研究、貨幣学など多岐にわたるテーマについて語り合っている。市内外の芸術家、職人の支援も行い、収集するモノ資料を増やした。

若き日の古代ローマへの熱い憧憬からか、1582年には、市参事会員で商人・鉱山経営者のアンドレアス・リフが監督するバーゼル市東部20キロほどに位置する古代ローマ劇場アウグスタ・ラウリカ *Augusta Raurica* の遺跡発掘事業に積極的に参加し、それは1590年ごろまで続いた。1587年に「財産目録D」を完成させる。精力的に遺跡発掘事業に関わるなか、1591年に体調を崩して肺炎にかかり死亡、祖父と父も眠るカルトゥジオ会修道院に埋葬された¹¹³。

後継者イゼリン家：バシリウスの姉の家系へ

バシリウスは妻の死後に再婚はせず、子どもも生後間もなく亡くなった第一子以外にいなかったため、アメルバッハ・キャビネットは甥のルートヴィヒ・イゼリン（1559-1612）が相続した。エラスムスの遺産である貴金属製ゴブレットは当初、バシリウスの姉ファウステーナ（1530¹¹⁴-1602）が相続したが、死後に再びアメルバッハ・キャビネットに編成されている。

ルートヴィヒは叔父バシリウスのもとで大切に育てられたように見える。少なくとも教育面では1581年にジュネーヴで神学者テオドール・ド・ベーズ *Theodor Beza* の下で、翌82年にはフランスのブルジュで人文主義法学者ジャック・キュジャス（クヤキウス）*Jacobus Cujacius* に学び、フィレンツェ、ローマ、ヴェネツィアに旅行している。1589年に地元バーゼルで法学博士（*Dr. iur. utr.*）を取得して、バーゼル市法律顧問を務め、バーゼル大学でも1610年までローマ法の教授となり2回学長も務めている。

叔父の残した資料群の秩序を保つよう努めていたようにみえるルートヴィヒだが、学者であったことも関係してか図書館に関してはシステムティックに拡張したようである。1612年に亡くなった際はまだ唯一の相続人となった息子バシリウス3世（1611-1648）が生まれたばかりだったこともあり、当初は内外から注目されずに済んでいたが、1648年の遺言¹¹⁵でアメルバッハ・キャビネットの売却を検討し、その収益を6人の子どもたち（1男5女）で分配するように示したことから相続争いが勃発した¹¹⁶。

(2) 17世紀：

都市バーゼルによるアーカイブズ購入とその影響

売却が検討されたアメルバッハ・キャビネットはヨーロッパ中で大きな注目を集めた。三十年戦争に関連し、アメルバッハの図書資料とハンス・ホルバインの絵画をスウェーデン女王クリスティーナに贈呈することをストラスブールの博学者ヨハン・ベックラー *Johann Heinrich Boekler* が主張し、また蒐集家として有名な第23代アランデル伯爵トマス・ハワードも購入の意思を示した。バーゼル市当局を特に焦らせたのは、アムステルダムのマルティン・ビュレン博士という人物が具体的な9500ライヒスタラーという金額で遺族との交渉を進めた1661年8月30日のことだろう。前章でも登場した蒐集家でもあった市参事会員でバーゼル大学学長のレミギウス・フェッシュが活躍し、市長ヨハン・ルドルフ・ヴェトシュタイン *Johann Rudolf Wettstein* のもと、1661年9月11日に都市バーゼルが9000ライヒスタラー（うち1500ライヒスタラーをバーゼル大学が負担）でアメルバッハ・キャビネットを購入し、資料群の散逸は免れた。翌1662年にバシリウスの「財産目録D」と照らし合わせながら資料の調査が行われ、都市当局により「財産目録G」が作成された。アメルバッハ・キャビネットがハウス・ツム・カイザーシュトゥールのアメルバッハ家のコレクション館からハウス・ツア・ミュッケに移管されたのは1671年のことである。移管後もすぐに整理が始まったわけではなく、司書の給与のための予算を獲得せねばならな

かった¹¹⁷。アメルバッハ・コレクションの中にあった金細工師工房由来の工具や、石膏や木、紙粘土や硫黄、小麦の練り粉などの不安定な素材でできた鋳造用の原型が入った6つの箱は「財産目録G」に記載されているものの、その後間も無く不用品として処分されてしまったと考えられている¹¹⁸。

(3) 18世紀以降：

他アーカイブズからの流入による改編

1681年の規定では、ハウス・ツア・ミュッケの鍵は学長と司書2名しか使うことができなかった。1760年からは従事する専門家も増えたらしく追加の鍵が認められたようである¹¹⁹。

その後、前章でも触れたように出所の異なるアーカイブズを都市が受け入れるなかでアメルバッハ・キャビネットにもそれらが一部混在してしまった。アンドレアス・リフ(1550-1603)の資料は1810年までは遺族が所有していたが、リフが亡くなった段階で既にコレクション・ケースからは複数の資料が失われ、1888年にバーゼル歴史博物館に売却されたときにはケースの中身はほとんどなかった。ただし散逸後に何らかの経緯でいくつかの鋳造原型がアメルバッハ・コレクションに混入したのではないかと考えられている¹²⁰。

アメルバッハ・キャビネットの散逸を防ぎ、市の所有にしたレミギウス・フェッシュは、自身のフェッシュ博物館の貨幣が2590点あることを1648年に書き残している。資料数は1800年には8322点に増大していたらしい。1770年代にはフェッシュ家の子孫はアーカイブズを適切に管理できなくなっていたという。1817年にヨハン・ルドルフ・フェッシュが亡くなると、フェッシュ家は次の管理人を任命することができず、1823年3月20日にフェッシュ博物館はバーゼル大学のアーカイブズに統合され、この際にフェッシュ博物館の金属鋳造原型がアメルバッハ・キャビネット由来の原型に混入したと考えられている¹²¹。

3. アメルバッハ・キャビネットにおける原秩序類推の試み

これまで第1章ではアメルバッハ・キャビネットの資料群を概観し、第2章でその成立と再編成の過程をコンテキストを追って見てきた。続く第3章では、アメルバッハ・キャビネットの膨大なアーカイブズのうち幾つかについて原秩序の類推を試みる。

(1) 文書資料—書簡—

アメルバッハ・キャビネットの書簡資料は、1662年の都市による調査時に図書館内の棚や籠に無秩序に保管されていたことがわかっている。書簡資料における「原秩序」というとき、それはどの段階を指すのだろうか。これまで見てきたように、アメルバッハ・キャビネットは主にアメルバッハ家の3世代、ヨハネス、ボンファキウス、バシリウスにより形成され、書簡資料も同様にそれぞれの代で蓄積されてきた。各人が書簡の作成者・受取人だった段階を原秩序と想定すると、例えば活発に事業を行っていたヨハネスはある案件が一段落するまでは関連する書簡はまとめて保管していたのではないかと考えられる。特に現在と違い、遠方の人間とのやり取りを行ううえで手紙しかないとなると待ち合わせの日や場所、もしくは一連の事業に関して、手紙をなくすことは致命的ではないだろうか。このように考えると1775年以前の調査でバーゼル大学図書館司書のヤコブ・クリストフ・ベック博士が、製本業者に書簡を宛先ごとにアルファベット順にまとめさせた¹²²のは、資料の作成から300年近く経った時点での再編成において、資料を利用している際の状態に近づける最もよい案に思われ、それ以外にまとめようがないという理由があったとしても、改めて博士の慧眼に感じ入る。翻刻書簡集AKはまた別の視点から編年で編纂されているが、18世紀当時やAKのプロジェクトが始まった20世紀前半とは異なり、コンピューターやインターネットの利用が普及している現代においてなんらかのデータベースを構築し、編年／宛先別のそれぞれで並び順を変えることがで

されれば非常に有用であるように思われる。現在、翻刻プロジェクトより優先して進行されていると思われる資料原本のデジタル化においても検索では関連する結果もあわせて表示され、目的の資料を絞り込むことが非常に困難なので、現状の検索システムに加え、より明確に対象を指定できるようなシステムの追加が望ましい。

500年以上前に作成された資料の原秩序を限られた情報から類推するのは現時点ではこれが限界だが、1662年の調査時の「無秩序な状態」というのも、真に無秩序であったのか、なんらかの資料のかたまりがあったのか、例え籠ひとつ分でも記録が欲しかったという気持ちが否めない。もっとも6000通以上の、形状も規格化されていない紙資料を限られた時間のなかで調査しなくてはならなかった当時の状況を考えると仕方がなかったともいえる。資料の保管先が遠くスイスであることから、オンライン上では資料一葉一葉を見ることはできても、1775年に綴じられた一冊ごとの状況を見ることはできず、資料現物に触れることができればより詳細な情報を得られるのかもしれない。

(2) モノ資料

モノ資料に関しては、キャビネット（戸棚）や匣、箱ごとの内容が大まかに記されている「財産目録B」「財産目録D」、及び1614年のルートヴィヒ・イゼリンの遺産目録からおおよその傾向を掴むことはできるだろう。第1章でアメルバッハ・キャビネットの資料点数に触れたが、10000点を優に超える分量を3目録分にわたって、しかも制作者のイニシャルのみや素材の種類だけのおおまかな記述の資料を翻訳しつつ再編成することは非常に現実的ではないため、以下の点を指摘するにとどめたい。

- 1) バシリウスは原則、資料の種別ごとに戸棚／匣／箱を分けて几帳面に保管していること
- 2) 特に大切にしていた貨幣資料に関しては、特別な匣¹²³を制作し、種別の異なる彫像や印章、ワックス肖像も一部収納できるものの、貨幣の大き

さにあわせた枠のある引き出しもつけていることから、財産目録と照合しつつ実際にモノ資料を入れてみることで類推もより容易になる可能性があること

現状の整理された状態から財産目録に合わせた原秩序に再編成する（戻す）ことは現実的ではなく、むしろ今後の保存にとって悪影響を与えることも考えられるが、どのキャビネット（戸棚）／匣／箱に入っていたのかという情報を加えることで、資料同士の関係が改めて可視化される可能性があることも付け加えたい。

(3) 鑄造原型

金属製の鑄造原型は目録においても「銀製の蜥蜴」¹²⁴などと記述されるだけで、モノ資料の現物との照合が非常に難しい。せめて他フォンドの資料であるアンドレアス・リフやフェッシュ博物館由来の鑄造原型と区別ができたらと思うが目録からの類推は不可能であると思われる。唯一可能性があるのは蛍光X線による非破壊の成分分析ではないだろうか。含まれる元素の組成を調べることができるので、アメルバッハ／リフ／フェッシュの別がわからなくとも工房単位・都市単位の生産場所ごとのかたまりが作れるかもしれない。もっとも現代のような厳密な金属割合でもって鑄造を行っていたわけではないため、同じ工房であっても鑄造のタイミングが異なれば組成が違うことは十分に考えられる。無作為抽出を行い試してみれば興味深い結果が得られるかもしれないが、調査にかかる費用と調査の意義の兼ね合いから行われていないのであろう。

終わりに：

現代のバーゼル市とアメルバッハ・キャビネット―市民生活に根差すアーカイブズ―

成立から数百年経った今もアメルバッハ・キャビネットは埃をかぶった異物ではなく、バーゼル市民

の生活に根ざしたアーカイブズである。例えば、バーゼル大学では若手研究者の育成と顕彰を目的にしたアメルバッハ賞 *Amerbach-Preis*¹²⁵を1996年以降毎年授与している。またバーゼル美術館やバーゼル歴史博物館ではアメルバッハ・キャビネットに直接関わる展覧会を1991年、2011年と開催し¹²⁶、歴史博物館には常設でアメルバッハ・キャビネットの資料が展示されている。関連する本の出版¹²⁷やプロジェクト¹²⁸の遂行においては、バーゼル大学や歴史博物館、美術館、州立文書館と複数の機関が連携し、学術的蓄積に基づいて町を盛り上げる一大コンテンツにもなっている。

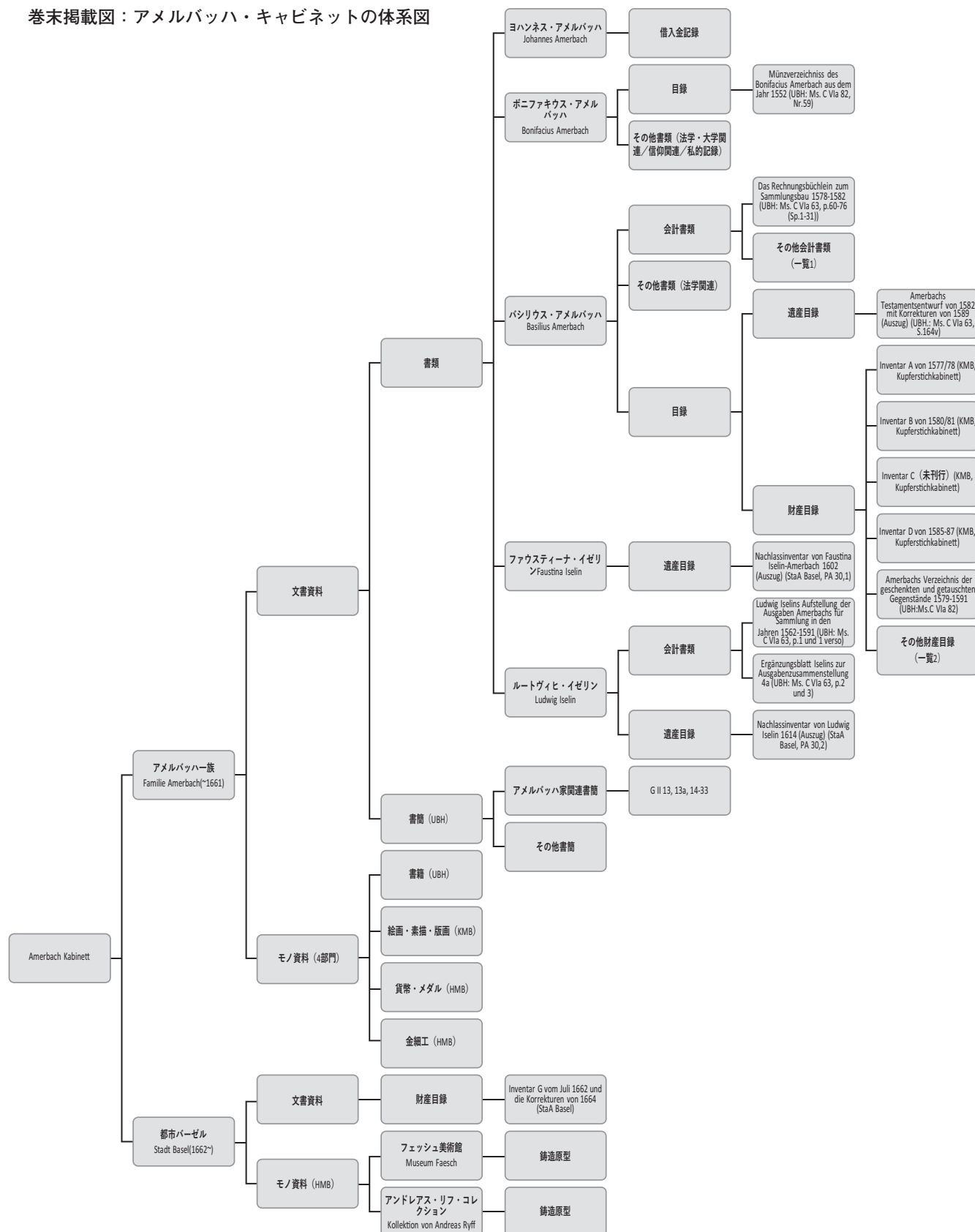
今回、本稿でこれだけ膨大な資料群の全体像を把握するのは非常に難しく、あくまでも概観にとどまざるを得ないが、多岐にわたる資料が含まれるアーカイブズであるからこそ、これだけ多くの研究がなされ、今後も更なる研究が続けられていくのだと感じる。

附記

本稿は2023年度アーカイブズ・カレッジ（史料管理学研修会、主催：国文学研究資料館）長期コース修了論文を一部修正したものである。

また本研究はJSPS科研費 JP20K13228の助成を受けている。

巻末掲載図：アメルバッハ・キャビネットの体系図



一覧1：バシリウス・アメルバッハの会計・家政書類 (UBH 所蔵)

Amerbach, Basilius: Aufstellung von Arztkosten und sonstigen Ausgaben von Basilius Amerbach. [Basel], [zwischen 1557 und 1559]. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.5-6, 9-10 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157295> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Rektoratsrechnung vom Juni 1563 bis Juni 1564. [Basel], Juni 1563-Juni 1564. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.11-14 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157296> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Haushaltsbuch. [Basel], [zwischen 1561 und 1563]. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.15-22, 27 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157288> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Haushaltsbuch. [Basel], [zwischen 1569 und 1570]. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.23-25 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157291> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Abrechnungen über eingegangene Zinsen und Ausgaben für Handwerkerlöhne. [Basel], [zwischen 1562 und 1564]. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.26, 28-30 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157276> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Diverse Abrechnungen. [Basel], [zwischen 1578 und 1591]. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.31-38 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157280> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Rektoratsrechnung vom Juni 1587 bis Juni 1588. [Basel], Juni 1587-Juni 1588. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.41-50 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157293> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Aufstellung von Reisekosten auf der Route von Padua nach Augsburg. [S.l.], [um 1555]. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.59, 64 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157292> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Rektoratsrechnung vom Juni 1586 bis Juni 1587. [Basel], Juni 1586-Juni 1587. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.51-58 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157287> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Ausgaben für die Reise nach Speyer. [S. l.], [zwischen 1560 und 1561]. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.83-85 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157278> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Rektoratsrechnung vom Juni 1566 bis Juni 1567. [Basel], Juni 1566-Juni 1567. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.86-88 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157290> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Rektoratsrechnung vom Juni 1580 bis Juni 1581. [Basel], Juni 1580-Juni 1581. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.89-92 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157286> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Rektoratsrechnung vom Juni 1573 bis Juni 1574. [Basel], Juni 1573-Juni 1574. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.92a-97 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157281> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Henricpetri, Adam ; Grynäus, Samuel: Abrechnungen u.a. von Adam Henricpetri über Schulden, die er dem Fiskus der Juristenfakultät zurückliess. [Basel], [zwischen 1575 und 1584]. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.98-100 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157283> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Dekanatsrechnung vom Juni 1588 bis Juni 1589. [Basel], Juni 1588-Juni 1589. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.101 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157279> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Dekanatsrechnung vom Juni 1589 bis Juni 1590. [Basel], Juni 1589-Juni 1590. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.102 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157282> / Public Domain Mark

[//doi.org/10.7891/e-manuscripta-157294](https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157294) / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Dekanatsrechnung vom Juni 1585 bis Juni 1586. [Basel], Juni 1585-Juni 1586. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.103 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157289> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Dekanatsrechnung vom Juni 1583 bis Juni 1584. [Basel], Juni 1583-Juni 1584. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.104-106a <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157284> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Abrechnung über den Aufbau einer Bibliothek der Juristischen Fakultät. [Basel], 16. Junij 1589. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.107 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157304> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Quittierung eines von Herzog Ludwig von Württemberg bezahlten Zinses von 31 fl. Zugunsten von Faustina Amerbach. [Basel], 19. April 1585. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.122 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157310> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Für Jakob Rudin ausgestellte Quittung über 1500 fl. Oder 940 Sonnenkronen als Mitgift für Esther Rudin bei ihrer Eheschliessung mit Basilius Amerbach. [Basel], 19. April 1561. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.123 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157313> / Public Domain Mark

一覧2：バシリウス・アメルバッハの各種財産目録（UBH所蔵）

書籍

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Aufstellung von Reisekosten und Ausgaben für Bücher während des Studienaufenthaltes in Bourges. [S.l.], [um 1557]. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.77-82 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157275> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius: 10a-c. Drei Bücherkataloge. 1559-1591.

Universitätsbibliothek Basel, C Vla 89:10a-c <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-89471> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius: 11. Katalog der Bibliothek von Ludovic Demoulin de Rochefort. [Basel], 2. Hälfte 16. Jh. Universitätsbibliothek Basel, C Vla 89:11 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-23618> / Public Domain Mark

版画

Amerbach, Basilius: Verzeichnis von Kupferstichen. [Basel], vor 1580. Universitätsbibliothek Basel, C Vla 31:fol.1-8 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-88583> / Public Domain Mark

金細工

Amerbach, Basilius: Notizen über die Verwaltung des Silberbergischen Legates durch den Rektor der Universität. [Basel], zwischen 1561 und 1588. Universitätsbibliothek Basel, C Vla 17-19:S.1a-4a <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-25097> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius: Gutachten für den Basler Goldschmied Peter Hans Segesser betr. Gültigkeit des Testamentes von Hans Erbser von Pfirt. [Basel], 16. Febr. 1591. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 31:fol.130-131 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-154050> / Public Domain Mark

Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Inventar von Silbergeschirr. [Basel], [zwischen 1560 und 1591]. Universitätsbibliothek Basel, UBH C Vla 63:fol.112-113 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157300> / Public Domain Mark

（むらまつ・あや 芸術学専攻／西洋美術史）
（2024年10月28日 受理）

註

- 1 都市バーゼルがスイス盟約者団（中世のスイスの名称）に加入したのは1501年。同名の農村共同体バーゼル・ラント（ラント＝農村）と区別するため、都市バーゼルと記載する。村松綾「中世後期スイスの緩やかな政治的結合体－立役者、盟約者団代表者会議が果たした役割」高山博・亀山洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体－統治の諸相と比較』東京大学出版会、2022年、第2部第7章、註8、273頁。
- 2 Bayerische Staatsbibliothek, Konferenz der Landeshistoriker an den bayerischen Universitäten und Kommission für bayerische Landesgeschichte bei der Bayerischen Akademie der Wissenschaften, *Historisches Lexikon Bayerns* (HLB), Online<<https://www.historisches-lexikon-bayerns.de/Lexikon/Startseite>>, München, 2006-, <Konzil von Basel, 1431-1449>; 出村彰『スイス宗教改革史研究』日本基督教団出版局、1971年、103-104頁; 佐藤るみ子「中世後期ヨーロッパ交易におけるバーゼルの経済圏(1)」『純心女子短期大学紀要』第19集、1983年、66-60 (179-185) 頁。
- 3 佐藤るみ子「スイスにおける製紙業の誕生－バーゼルの製紙業創始者たち－」森田安一編『スイスの歴史と文化』刀水書房、1999年、29-54頁; 田中力「宗教改革時代のバーゼル市の経済史的研究」『社会経済史学』47-48頁。
- 4 「宗教改革時代のバーゼル市の経済史的研究」47-48頁; 『スイス宗教改革史研究』105頁; Pierre L. Van der Haegen, *Der frühe Basler Buchdruck, Ökonomische, sozio-politische und informationssystematische Standortfaktoren und Rahmenbedingungen*, Basel, 2001, S.22ff.
- 5 エラスムス・フォン・ロッテルダム (1466-1536)。『スイス宗教改革史研究』107-108頁; Die Schweizerische Akademie der Geistes- und Sozialwissenschaften, *Historisches Lexikon der Schweiz* (HLS), Online<<https://hls-dhs-dss.ch/de/>>, Bern, 2017-, <Erasmus von Rotterdam>。
- 6 『スイス宗教改革史研究』104-105頁。
- 7 ヨハネス・エコランパッド (エコランパディウス) (1482-1531)。1515年にエラスムスによるギリシア語新約聖書の校正者として印刷業者ヨハネス・フローベンからバーゼルに招聘される。エラスムスの助手としても活躍し注釈の検証も担当。翌年故郷で説教者となったあと、1516年秋、1518年とバーゼル再訪、1522年秋にバーゼルに戻り、1523年以降、聖マルティン教会の副司祭、司祭として福音主義的な説教やプロテスタント礼拝を導入した。出村、89-102、109-117、118-127頁; 瀬原義生『精説スイス史』文理閣、2015年、90-91頁; HLS, <Johannes Oekolampad>。
- 8 Alfred Hartmann, hrsg., *Die Briefe aus der Zeit Johann Amerbachs : 1481-1513 : mit Register und 6 Handschriftenproben, Die Amerbachkorrespondenz*, Bd. 1 (AK1), Basel, 1942, S. XIX. アモールバッハがアメルバッハに転じたのだろう。
- 9 ヴェネツィアに関する記載はあるが、後に登場する共同事業者ニュルンベルクのアントン・コーベルガーの印刷所で働いていた経験があるかは現時点では明らかになっていない。Oscar von Hase, *Die Koberger. Eine Darstellung des buchhändlerischen Geschäftsbetriebes in der Zeit des Überganges vom Mittelalter zur Neuzeit*, Leipzig, 1885, S.84; HLS, <Johannes Amerbach>。
- 10 ラインガッセRheingasse 23に位置する。1482年から1591年までアメルバッハ家の所有。ヨハネスによる購入後、1546年に息子のボニファキウスが屋敷の裏手に位置するシャフグスラインSchafgässleinの6番と8番を購入して拡張している。
- 11 Sabine Söll-Tauchert, „Goldschmiedekunst in frühen Basler Sammlungen“, in Ulrich Barth und Christian Hörack, hrsg., *Basler Goldschmiedekunst, Katalog der Werke*, Basel, 2014, S.18.
- 12 AK1, S.IX.
- 13 <https://basel.swisscovery.org/> 及び <https://www.e-manuscripta.ch/>で膨大な数の書簡群を検索することができる。
例) <<https://www.e-manuscripta.ch/search/quick?query=amerbach>>
- 14 1671年の移管時にはアメルバッハ・キャビネットに加えて、ラインシュブルングRheinsprung 9と11に設置されたウンテレス・コレギウムUnteres Kollegiumにあった大学図書館も併せて移された。<https://ekds.ch/database/Schlueselberg14_alteNr_1454_ZurMuecke_S124>, .
- 15 AK1, S.V.
- 16 AK1, S.Vf.
- 17 AK1, S. XIII.
- 18 Koberger, Hans: 227. Guthaben H. Amerbachs bei Koberger. [S.l.], [nicht später als 1514]. Universitätsbibliothek Basel, G II 29:2.BI.227 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-27661> / Public Domain Mark
- 19 Elisabeth Landolt, Hans-Rudolf Hageman, Susanne von Hoerschelmann, Felix Ackermann, Öffentliche Kunstsammlung Basel, hrsg., *Das Amerbach-Kabinett, Beiträge zu Basilius Amerbach*, Basel, 1991, S.109-122.
- 20 Materialien zum Amerbachschen Münzkabinett / Bonifacius Amerbach, Basilius Amerbach, Ludwig Iselin - 16. Jahrhundert, 1 Mappe (59 Nummern), Basel, UB, UBH C VIa 82, Nr.59<<https://swisscollections.ch/Record/991170491433805501>>.
- 21 Amerbach, Bonifacius: Konzept für die Promotionsrede vom 4. Februar 1525. [Basel], 1525. Universitätsbibliothek Basel, C VIa 31: fol. 156-158 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-88016> / Public Domain Mark
- 22 Amerbach, Bonifacius: Konzept für die Rektoratsrede vom

- August 1526. [Basel], August 1526. Universitätsbibliothek Basel, C VIa 31: fol. 152 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-89469> / Public Domain Mark
- 23 Amerbach, Bonifacius: Eingabe an den Basler Rat betr. die Kompetenz der akademischen Gerichtsbarkeit, aus Anlass des tödlichen Unfalles eines Studenten. [Basel], 22. Septembris 1555. Universitätsbibliothek Basel, C VIa 31: fol. 190 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-90800> / Public Domain Mark
- 24 Amerbach, Bonifacius ; Brunner, Conrad ; Dodo, Augustinus ; Gebwiler, Hieronymus: 30. Abrechnungen über Zahlungen für Bücherkäufe und akademische Feiern. 1. Hälfte 16. Jh. Universitätsbibliothek Basel, C VIa 30 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-66088> / Public Domain Mark
- 25 Amerbach, Bonifacius: Aufzeichnungen zu den kriegesischen und rechtlichen Auseinandersetzungen um Albrecht II. Alcibiades, Markgraf von Brandenburg-Kulmbach, im Zweiten Markg [...], um 1556. Universitätsbibliothek Basel, C VIa 31: fol. 124-126 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-89468> / Public Domain Mark
- Amerbach, Bonifacius: Notizen zum Gutachten im Prozess der Gräfin Agnes von Lupfen gegen Christoph von Staufen 1530. [Basel], 1530. Universitätsbibliothek Basel, UBH C VIa 83, Nr. 28-29, 31-38 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-128980> / Public Domain Mark
- 26 Amerbach, Bonifacius: Gutachten für Michael Maler (= Pictorius) von Konstanz betr. Rückzahlung eines Darlehens. Basileae, VI. Eid. Februar. 1556. Universitätsbibliothek Basel, UBH C VIa 46: S. 293-300 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-154080> / Public Domain Mark
- Amerbach, Bonifacius: Notizen und Gutachten für den Basler Rat im sog. Dompropsteihandel. [Basel], 1549-1555. Universitätsbibliothek Basel, UBH C VIa 47: S. 149-212, 219-242 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-130529> / Public Domain Mark
- Amerbach, Bonifacius: Notizen und Gutachten für den Basler Rat betr. Beitragspflicht zur Unterhaltung des Reichskammergerichts. [Basel], Beatae Virginis 1542. Universitätsbibliothek Basel, UBH C VIa 47: S. 213-218 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-130530> / Public Domain Mark
- Amerbach, Bonifacius: Gutachten für den Basler Rat betr. Rechtsstreit zwischen dem Bischof von Basel und der Stadt Pruntrut. [Basel], [1556-1560]. Universitätsbibliothek Basel, UBH C VIa 47: S. 243-248, 317-328 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-130531> / Public Domain Mark
- 27 Amerbach, Bonifacius ; Salzmann, Adelberg: Entwurf der Statuten für die Erasmusstiftung. [Basel], nach 1536. Universitätsbibliothek Basel, C VIa 71: Bl. 64-73 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-49378> / Public Domain Mark
- 28 Amerbach, Bonifacius: Glaubensbekenntnis von Bonifacius Amerbach bezüglich der Abendmahlslehre. [Basel], 21. Febr. 1534. Universitätsbibliothek Basel, C VIa 31: fol. 132-133 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-88584> / Public Domain Mark
- 29 Wolff, Thomas ; Amerbach, Bonifacius: Amerbachiorum Inscriptiones latinae. Freiburg/Basel, 1515. Universitätsbibliothek Basel, UBH C VIa 72 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-49071> / Public Domain Mark
- 30 Amerbach, Bonifacius: Tagebuchartige Notizen, vom 25. April bis 22. November 1531. Basel, 25. 4. -22. 11. 1531. Universitätsbibliothek Basel, C VIa 90: 4 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-13883> / Public Domain Mark
- 31 Amerbach, Bonifacius: Entwürfe zum Epigramm auf Hans Holbeins Amerbach-Bildnis. [Basel], [1519]. Universitätsbibliothek Basel, UBH C VIa 73: 407 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-110846> / Public Domain Mark
- 32 Amerbach, Bonifacius ; Amerbach, Basilius ; Rechberger, Jacob: Gesuch an den Basler Rat um Rückgabe einer Bildtafel aus dem Amerbach'schen Familiengrab in der Basler Kartaue. [Basel], 1528/1529. Universitätsbibliothek Basel, C VIa 31: fol. 134 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-87993> / Public Domain Mark
- Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Zusammenstellung erbrechtlicher Fragen. [Basel], [zwischen 1560 und 1591]. Universitätsbibliothek Basel, UBH C VIa 63: fol. 121 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157307> / Public Domain Mark
- 33 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S. 101ff; < <https://ekds.ch/database/03030d03a6b644a4832d28ccecf9795>>.
- 34 Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Rechnungsbüchlein zum Sammlungsbau für das Amerbachkabinett. [Basel], [zwischen 1578 und 1582]. Universitätsbibliothek Basel, UBH C VIa 63: fol. 60-63, 65-76 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157285> / Public Domain Mark
- 35 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S. 123-129.
- 36 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S. 131-139.
- 37 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S. 107.
- 38 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S. 141-173.
- 39 Amerbach, Basilius: 55. Verzeichnis der geschenkten und getauschten Gegenstände. [Basel], 1579-1591. Universitätsbibliothek Basel, C VIa 82, Nr. 55 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-46616> / Public Domain Mark
- 40 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S. 208-237.
- 41 *Beiträge zu Basilius Amerbach*.

- 42 Demoulin de Rochefort, Ludovic, Index entry in: Deutsche Biographie, <https://www.deutsche-biographie.de/pnd130210005.html> [20.10.2023]; .
- 43 Rudolf F. Burckhardt, „Über die Medaillensammlung des Ludovic Demoulin de Rochefort im Historisches Museum zu Basel “ in *Anzeiger für schweizerische Altertumskunde : Neue Folge = Indicateur d'antiquités suisses : Nouvelle série 20-1*, 1980, S.36-53.
- 44 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S.123.
- 45 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S.131-139.
- 46 調査申し込みに対する2018年7月31日の同美術館版画室キュレーターAriane Mensger博士の回答；*Beiträge zu Basilius Amerbach*, S.107.
- 47 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S.141ff.
- 48 Sabine Söll-Tauchert, „Goldschmiedekunst in frühen Basler Sammlungen “, S.18.
- 49 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S.275 ff.
- 50 92ページ、うち2ページ分はサイズの異なる多くの修正の入った紙片が挟まれたもの。13ページは空白。
- 51 Amerbach, Basilius ; Amerbach, Basilius: Testamentarische Verfügungen. Basel, [zwischen 1564 und 1589]. Universitätsbibliothek Basel, UBH C VIa 63: fol. 127-167 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157305> / Public Domain Mark
- 52 Amerbach, Juliana ; Amerbach, Basilius: Testament von Juliana Amerbach. Basel, [zwischen 1560 und 1564]. Universitätsbibliothek Basel, UBH C VIa 63: fol. 168-169 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157306> / Public Domain Mark
- 53 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S.279-281.
- 54 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S.283-285.
- 55 Iselin, Ludwig: Aufstellung der Ausgaben von Basilius Amerbach für seine Sammlung in den Jahren 1562-1591. [Basel], [zwischen 1591 und 1612]. Universitätsbibliothek Basel, UBH C VIa 63: fol. 1-4 <https://doi.org/10.7891/e-manuscripta-157297> / Public Domain Mark
- 56 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S.287-288.
- 57 <https://dls.staatsarchiv.bs.ch/records/89903>
Titel Inventar und Teilung der Verlassenschaft (Erbteilung) von Fausina Iselin geb. Amerbach/Signatur PA 30 1/Stufe Dossier/Entstehungszeitraum 1602
- 58 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S.289-303.
- 59 <https://dls.staatsarchiv.bs.ch/records/89904>
Titel Inventar und Teilung der Verlassenschaft (Erbteilung) von Prof. Ludwig Iselin/Signatur PA 30 2/Stufe Dossier/Entstehungszeitraum 1614
- 60 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S.300, 「1614年のルートヴィヒ・イゼリンの遺産目録（抜粋）」, Seite 11, Zeile 9-10.
- 61 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S.291, 「1614年のルートヴィヒ・イゼリンの遺産目録（抜粋）」, Seite 2, Zeile 18-20.
- 62 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S.289.
- 63 Ak1, S. V.
- 64 Sabine Söll-Tauchert, „«ein ansehnlicher Schatz von allerley alten Münzen, Kunst vnd Rariteten» Das Amerbach-Kabinett “, in Historisches Museum Basel, hrsg., *Die grosse Kunstammer, Bürgerliche Sammler und Sammlungen in Basel*, Basel, 2011, S.50f.
- 65 1578年の財産目録による。鑄造原型資料の増加は1585/87年までに資料を買い足したため（財産目録D）。Sabine Söll-Tauchert, „Goldschmiedekunst in frühen Basler Sammlungen “, S.17f.
- 66 Sabine Söll-Tauchert, „Goldschmiedekunst in frühen Basler Sammlungen “, S.13f.
- 67 <https://dls.staatsarchiv.bs.ch/records/283465>
Titel Bibliothek, allgemeines und einzelnes, Bibliotheks kommission, (Amerbachisches Kabinett, Altertümer, Kunstsachen)/Signatur Erziehung DD 2/Stufe Serie/ Entstehungszeitraum 1539-1950/Archivalienart Akte
- 68 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S.175-206.
- 69 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S. 177, 195; <https://sammlungonline.kunstmuseumbasel.ch/eMP/eMuseumPlus?service=ExternalInterface&module=collection&objectId=979&viewType=detailView>
- 70 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S.181ff.
- 71 Sabine Söll-Tauchert, „Goldschmiedekunst in frühen Basler Sammlungen “, S.25ff.
- 72 生年はElisabeth Landolt, „Das Amerbach-Kabinett und seine Inventare “, in *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S.76による。HLS, <Johannes Amerbach>では1440-45年。1942年出版のAK1では1430年誕生説も紹介しているが、本稿では後年の研究成果を採用する。
- 73 HLS, <Johannes Amerbach>.
- 74 ヨハン（ヨハネス）・ハインリー（1428/31-96）。パリ大学、バーゼル大学、ソルボンヌ大学等で教鞭をとった。晩年はバーゼルのカルトゥジオ会修道院に入る。ソルボンヌ大学学長時にドイツ人を招いて印刷所を設立した。HLS, <Johannes Heynlin> ; ジョン・マン／田村勝省訳『グーテンベルクの時代 印刷術が変えた世界』原書房、2006年、224頁；慶應義塾大学メディアセンターデジタルコレクション、インキュナブラコレクション041cヨハネス。ハインリー（聖職者のための）「ミサ執行の手引き」解説<https://dcollections.lib.keio.ac.jp/ja/incunabula/041c>（最終アクセス2022年3月20日）。
- 75 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S.77 ; HLS, <Johannes Amerbach>.
- 76 Kommission für die Öffentliche Bibliothek der Universität Basel, bearb. und Alfred Hartmann hrsg., *Die Amerbachkorrespondenz* (AK), 11 Bde., Basel, 1942-2010, .

- 77 1469年にグーテンベルクの弟子によって印刷機が持ち込まれ1480年にはドイツより多くの印刷所を擁していた。印刷機も150台まで増えヨーロッパ全体の印刷の中心地となった。1501年にはバリのおよそ2倍の書籍が出版されている。Paul F. Grendler, *Aldus Manutius : humanis, teacher, and printer*, John Carter Brown Library, 1984, p.5; 『グーテンベルクの時代』214–215頁。
- 78 Barbara C. Halporn, selected, translated, and edited by, *The Correspondence of Johann Amerbach : Early Printing in Its Social Context*, Michigan, 2000, p.4.
- 79 アルドゥス・マヌティウス (テオバルド・マヌッチ、アルド・マヌツィオ) (1449 頃–1515)。ローマ大学では人文学を、フェッラーラ大学では古典ギリシア語を学んだ後、1488年もしくは89年にヴェネツィアで活版印刷を始めアルドゥス出版を創始、ギリシア語を中心とする古典の出版を手がけた。アルドゥス出版はマヌティウス死後の1595年まで存続する。*Aldus Manutius*, pp.6–8; エリク・ド・グロリエ/大塚幸男訳『書物の歴史』白水社、1992年、80–81頁; 『グーテンベルクの時代』214–216頁。
- 80 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S.77.
- 81 小間物商、香料商、薬屋、書籍商、ブリキ職人、帽子工、袋物師、製針工から成るツunft。森田安一『スイス中世都市史研究』山川出版社、1991年、231–235頁。
- 82 AK1, S. XIXff; „Das Amerbach-Kabinet und seine Inventare“, S.76
- 83 セバスチャン・ブランド (1457/58–1521)。風刺詩集『阿呆船』の作者としても知られる。バーゼル大学で法学を学んだ後、同大でローマ法とカノン法、詩論の教鞭をとり、学部長も務めた。スイス盟約者団と神聖ローマ帝国との関係において皇帝マクシミリアン1世に非常に近い立場をとったことから1501年以降に故郷シュトラスブルに戻り、同市の法律顧問、次いで書記を務めた。HLS, <Sebastian Brant>; 市村卓彦「セバスチャン・ブランドと阿呆船」『龍谷紀要』28–1、2006年、27–41頁。
- 84 ヨハネス・ロイヒリン (1455–1522)。人文主義者、古典学者。バーゼル大学で法学を学びマギステル・アルティウムを取得。ヨハネスの依頼でラテン語とギリシア語辞書をそれぞれ編纂している。HLS, <Johannes Reuchlin>.
- 85 ベアートゥス・レナース (1485–1547)。人文主義者。パリでジャック・ルフェーヴル・デターブルに学び、ジャン・プチとアンリ・エティエンヌのもとで校正を行う。1511年からバーゼルに住み、フローベんとエラスムスの著作の出版や編集を行った。バーゼルでエラスムスの穏健な改革路線が廃れたのちは故郷セレスタに帰りストラスブルで亡くなった。Research group on private modern philosophy collections, Scuola Normale Superiore di Pisa, eds., *Private Libraries of Philosophers from the Renaissance to the Twentieth Century*, online<<http://picus.unica.it>>, 2008–2012, <Beatus Rhenanus (Beat Bild)>; HLS, <Beatus Rhenanus>.
- 86 ヨハネス (ヨハン)・ペトリ (1441–1511)。印刷販売出版業。1480年バーゼル移住、1488年にバーゼル市民権、サフランツunft加入。AK1, S. 36; Hans Peter Frey und Universitätsbibliothek Basel, hrsg., *Index typographorum editorumque Basiliensium* (ITB), Online <<https://ub.unibas.ch/itb/>>, Basel, 2014, <Johannes Petri (1441–13.5.1511)>.
- 87 ヨハン (ヨハネス)・フローベ (1460–1527頃)。印刷出版業。1486年にニュルンベルクのアントン・コーベルガーのもとで働いたのちバーゼル移住。1490年バーゼル市民権取得、1492年にサフランツunft、1522年に鍵ツunft加入。ITB, <Johannes Froben (ca. 1460–26.10.1527?)>.
- 88 ITB, <Johannes Amerbach (1430?–25.12.1513)>; HLS, <Johannes Amerbach>; <https://ub2.unibas.ch/itb/druckerverleger/johannes-amerbach/> (最終アクセス2022年9月11日)。
- 89 アントン・コーベルガー (1440頃–1513)。デューラーの名付け親。印刷所・出版社・書店をまとめて一手に経営していたことから同時代のヨーロッパで最大規模のメディア経営者といわれている。コーベルガーの印刷所では毎日24台の印刷機が稼働し、100人を超える職人を雇用していた。営業所がライプツィヒ、レーゲンスブルク、ヴロットワフ、クラクフ、ブダ、フランクフルト、バリ、リヨン、ウィーン、ヴェネツィア、ミラノとヨーロッパ各地にあった。*Die Koberger*, S.54; 『グーテンベルクの時代』206頁。
- 90 AK1:378.
- 91 *Die Koberger*, Briefverzeichnis S. III–IV ; Barbara C. Halporn, *The Correspondence of Johann Amerbach*, Michigan, 2000, pp.207–272.
- 92 AK1, S.XXI.
- 93 ブルーノとバシリウス1世から届いた書簡はヨハネスが多く保管していたが、ヨハネスがバリの息子たちに宛てた手紙は1502年以降は残っていない。息子たちに宛てた手紙はAK1:127; 128など。AK1, S. VII, VIII.
- 94 *The Correspondence of Johann Amerbach*, p.209.
- 95 Staatsarchiv Basel-Stadt (StABS), NEG A 4376; StABS, NEG A 4377
- 96 グランド・シャルトルーズの総支部とパリ郊外のボーヴェルト支部の協力を得た。Beat R. Jenny, „Die Beziehungen der Familie Amerbach zur Basler Kartause und die Amerbachsche Grabkapelle daselbst“, *Zeitschrift für schweizerische Archäologie und Kunstgeschichte = Revue suisse d'art et d'archéologie = Rivista svizzera d'arte e d'archeologia* 58–4, 2001, S. 267f.
- 97 AK1:337.
- 98 AK1:470.
- 99 AK1, S.XX.
- 100 AK1:177–178. ペトリとともに事業のことでコーベル

- ガーを訪問。11月20日にコーベルガーが2人の来訪予定を喜ぶ手紙を書き、また11月21日の妻バルバラがパリの息子たちに書いた手紙ではヨハネスはこの時点でバーゼルにいないことが分かる。
- 101 AK1:27.
- 102 *The Correspondence of Johann Amerbach*, pp.211-212.
- 103 Michael Diefenbacher und Rudolf Endres u. A., hrsg., *Stadtlexikon Nürnberg*, Nürnberg, 1999, <Tetzel>; Peter Fleischmann, *Ratsherren und Ratsgeschlechter, Rat und Patriziat in Nürnberg. Die Herrschaft der Ratsgeschlechter in der Reichsstadt Nürnberg vom 13. Bis zum 18. Jahrhundert, Nürnberger Forschungen, Bd. 31-2*, Nürnberg, 2008, S.982ff, Anlagen<Tetzel>.
- 104 AK1:292. (1506年1月9日の受け入れ要請の手紙); AK1:298. (1506年2月15日。コーベルガーより2人の尽力への感謝)
- 105 *Rat und Patriziat in Nürnberg, Bd. 31-2*, S.974, 988, 998.
- 106 <<https://ekds.ch/database/03030d03a6b644a4832d28ccecfc9795>>.
- 107 Staatsarchiv Basel-Stadt (StABS), NEG A 4376; StABS, NEG A 4377
- 108 HLS, < Bruno Amerbach >, < Basilius Amerbachder (Ältere)>.
- 109 HLS, < Bonifacius Amerbach >; Wilhelm Merian, „Bonifacius Amerbach und Hans Kotter“, *Basler Zeitschrift für Geschichte und Altertumskunde* 16, 1917, S. 144ff; Lothar Schmitt, *Der Siegelring des Erasmus von Rotterdam, Basler Kostbarkeiten* 30, Basel, 2009, S. 6ff; *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S.78.
- 110 Beat Rudolf Jenny, Ueli Dill, Lorenz Heiligensetzer und Reinhard Bodenmann, hrsg., *Die Briefe aus den Jahren 1559-1562, Die Amerbachkorrespondenz, Bd. 11-1* (AK11-1), Basel, 2010, AK11-1: 4512 等; Daniel Albert Fechter, hrsg., *Basler Taschenbuch auf das Jahr 1863*, Basel, 1863, S. 239; Felix Ackermann. “Plaketten im Amerbach-Kabinett” in *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S. 53; Pamela H. Smith and Tonny Beentjes, “Nature and Art, Making and Knowing: Reconstructing Sixteenth-Century Life-Casting Techniques”, *Renaissance Quarterly* 63, Chicago, 2010, p.141; 村松綾「帝国都市ニュルンベルクの金細工師ヴェンツェル・ヤムニッツァーとスイスのバーゼル市に残された自然物鑄造作品に関する一考察」『FUSUS』15、アジア鑄造技術史学会、2023年、137頁。
- 111 16世紀の都市バーゼルでは1563/64年、1576/78年、1582/83年、1593/94年にベストが流行している。Ulrich Barth und Christian Hörack, „Entwicklungslinie der Basler Goldschmiedekunst“, *Basler Goldschmiedekunst*, S.38.
- 112 ツム・タンツの工房の道具類、作品もこの年か1586年に購入される。
- 113 HLS,<BasiliusAmerbachder (Jüngere)>; Felix Ackermann, „Biographische Abriss zu Basilius Amerbach“, in *Beiträge zu Basilius Amerbach*, S.8f.
- 114 1534年生まれという説もあるが、本稿では後年の研究に合わせた。Wilhelm Merian, „Bonifacius Amerbach und Hans Kotter“, S. 145.
- 115 Sabine Söll-Tauchert, „«ein ansehnlicher Schatz von allerley alten Münzen, Kunst vnd Rariteten» Das Amerbach-Kabinett“, S.58, 註116によればPaul Ganz und Emil Major, Die Entstehung des Amerbach’schen Kunstkabinetts und die Amerbachschen Inventare, Jahresbericht der öffentlichen Kunstsammlung Basel N. F.3=59, 1907に「財産目録F (Das Inventar F)」として記載があり、バーゼル美術館版画室に原本とElisaabeth Landoltによる翻刻があると記述されている。
- 116 HLS, < Ludwig Iselin >; Sabine Söll-Tauchert, „«ein ansehnlicher Schatz von allerley alten Münzen, Kunst vnd Rariteten» Das Amerbach-Kabinett“, S. 56ff; Burkard von Roda, „Vom privaten zum institutionellen Sammeln. Zur Entwicklung des Museumswesens in Basel“, in *Die grosse Kunstkammer, Bürgerliche Sammler und Sammlungen in Basel*, S.130f.
- 117 Sabine Söll-Tauchert, „«ein ansehnlicher Schatz von allerley alten Münzen, Kunst vnd Rariteten» Das Amerbach-Kabinett“, S.56ff; Burkard von Roda, „Vom privaten zum institutionellen Sammeln. Zur Entwicklung des Museumswesens in Basel“, S.130ff.
- 118 Sabine Söll-Tauchert, „Goldschmiedekunst in frühen Basler Sammlungen“, S.18.
- 119 Burkard von Roda, „Vom privaten zum institutionellen Sammeln. Zur Entwicklung des Museumswesens in Basel“, S.134.
- 120 Raphael Beung, „Die Welt im Kasten. Der sammelnde Kaufmann Andreas Ryff (1550-1603)“, in *Die grosse Kunstkammer, Bürgerliche Sammler und Sammlungen in Basel*, S.66f; Sabine Söll-Tauchert, „Goldschmiedekunst in frühen Basler Sammlungen“, S.26f.
- 121 André Salvisberg, „«... mit grosser Müh, Sorgfalt und Unkosten, in dreissig und mehr Jahren zusammen gelegt ...» Das Museum Faesch“ in *Die grosse Kunstkammer, Bürgerliche Sammler und Sammlungen in Basel*, S.93.
- 122 AK1, S.V.
- 123 貨幣用ケース、1578年ごろ制作、Inv. 1908.16.
<https://www.hmb.ch/museen/sammlungsobjekte/einzelansicht/s/muenzkasten-von-basilius-amerbach/>.
- 124 *Beiträge zu Basilius Amerbach*, Münzverzeichnis des

- Bonifacius Amerbach aus dem Jahr 1552, S.121, Spalte15.
- 125 <https://www.unibas.ch/de/Universitaet/Portraet/Dies-Academicus/Amerbach-Preis>. html#: ~; text = Der%20Amerbach%2DPreis%20ist%20der,nach%20von%20den%20Fakultäten%20bezeichnet.
- 126 Sammeln in der Renaissance, Das Amerbach-Kabinett, Sonderausstellung im Kunstmuseum Basel, vom 21. April bis zum 21. Juli 1991; Eine Welt im Kleinen-Die grosse Kunstammer, Dauerausstellung im Historischen Museum Basel 13. November 2011
- 127 Ulrich Barth und Christian Hörack, hrsg., *Basler Goldschmiedekunst, Bd1: Meister und Marken, Bd. 2: Katalog der Werke*, Basel, 2013, 2014.
- 128 プロジェクト：バーゼルの貨幣キャビネット。アメルバッハ・キャビネット由来資料だけではなく、関連するため例示した。
<https://www.digitalesschaudepot.ch/portfolio-details-7.html>